

近畿気候変動適応茶業研究連絡会 活動報告

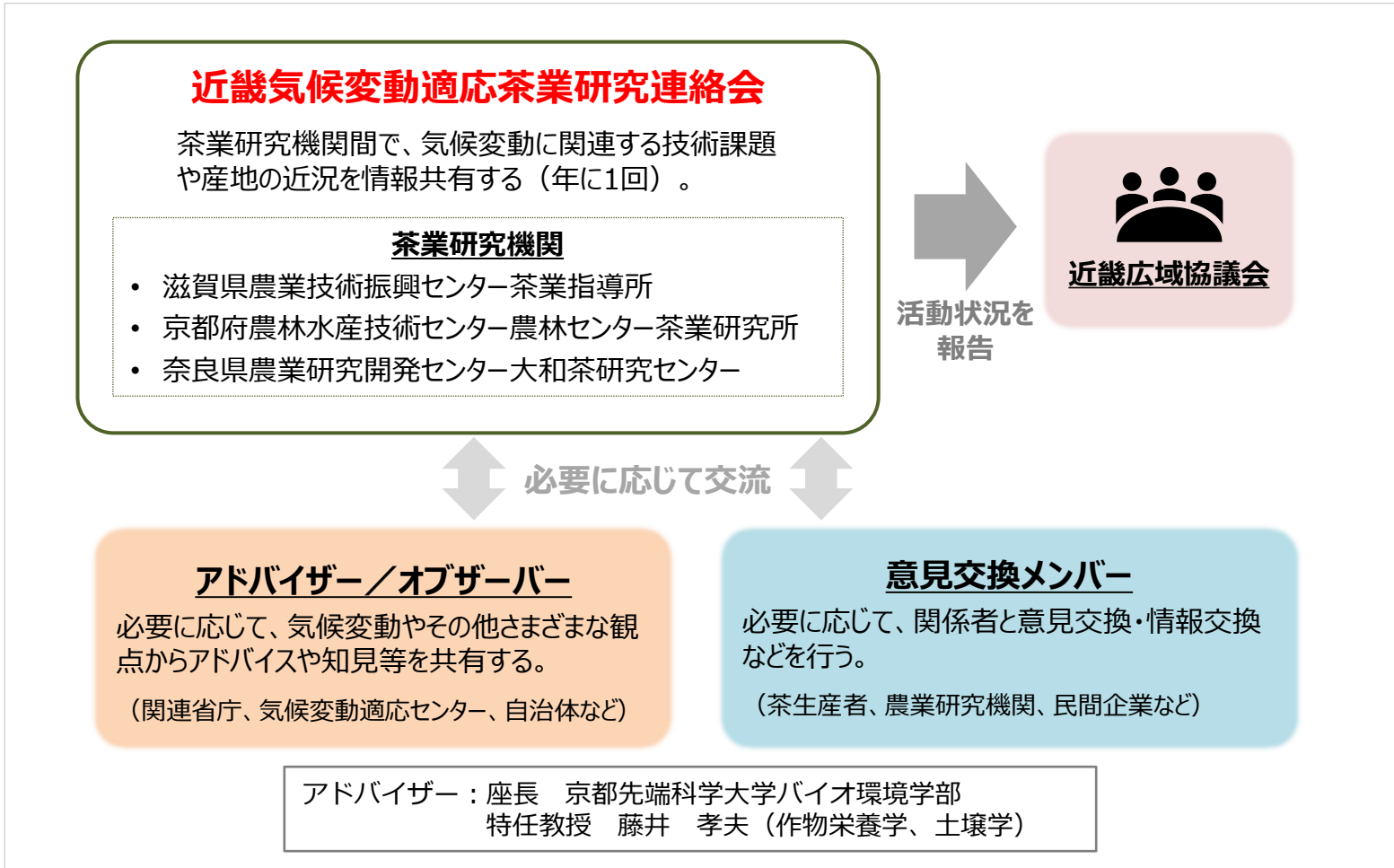
令和8年3月

一般財団法人日本気象協会

近畿気候変動適応茶業研究連絡会 令和7年度活動概要

取組

適応アクションの実施主体である「近畿気候変動適応茶業研究連絡会」（茶業研究機関）の活動状況について、事務局（近畿地方環境事務所、日本気象協会）よりヒアリングを実施した。



近畿気候変動適応茶業研究連絡会 ヒアリング概要(1/2)

〈概要〉

- 日時 : 2026年1月6日(火) 15:30~16:30 (1時間) @オンライン
参加者 : ・滋賀県茶業指導所 ・奈良県大和茶研究センター ・京都府茶業研究所
・京都先端科学大学バイオ環境学部食農学科 藤井孝夫 特任教授
・京都大学 白岩立彦 名誉教授 ・事務局 (近畿地方環境事務所、日本気象協会)

ヒアリング内容抜粋



■ 近畿気候変動適応茶業研究連絡会の実施内容

- ・ 2025年12月16日に滋賀県で開催し、合計16名が出席
- ・ 各府県の今年度の研究概要を共有 (京都、滋賀：気象に関する発表、奈良：有機栽培に関する発表)
- ・ 京都府の提案で、「バイオスティミュラントの散布による低温害の回避効果」の検証試験を、4月から5月にかけて3府県それぞれで実施し、その結果を共有した。
なお、散布方法や試験環境は異なったが、若干の効果が見られた。

〈2025年の気象概況及び茶葉の生育状況〉

- ・ 1~2月が低温、それ以降は平年並みの気温であり、一番茶の萌芽、生育はやや緩慢であった。
 - ・ 4月の下旬ごろに一部で凍霜害が見られた。
 - ・ 夏季には一部で高温障害が見られた。
 - ・ 9月以降は高温で推移したが、10月下旬以降は急激に気温が下がったため、再萌芽は見られなかった。
 - ・ 秋以降は少雨であった。
- 一番茶収量は減少したが、前年秋からの少雨の影響が大きかった。(滋賀県)
➤ 二番茶以降の芽伸びが悪く、おそらく高温と少雨の影響だという印象。(奈良県)

近畿気候変動適応茶業研究連絡会 ヒアリング概要(2/2)

ヒアリング内容抜粋



■ 茶業研究機関同士の普段の連携状況・連携の意義

- 普段は会議（年1,2回）や品評会（年1回）で顔を合わせた際に少し話す程度である。現状、連絡会以外で3府県の研究機関が話す特別な機会はない。
- 地理的に近く気象条件も似ているため、情報を訊きやすく、共通した課題等を持っている3府県が情報交換することにとっても意義を感じている。今後も、共同研究等を実施したいと考えている。
- 若手の研究員が増えている中で、他県の研究員との交流は意義が高い。

■ 近畿広域協議会や事務局に対する要望

- 3府県の連絡会に藤井先生のような有識者に同席いただきたい。

■ 認識している課題

- 低温害に劇的な効果を示す手法がなく、何か新しい方法を考える必要性を実感しているが、具体的な案はない。
- 夏の高温障害についても問題意識が高まっている。
- 害虫の発生時期や回数が増えている。
- 高齢の農家から、夏季の作業の負担に関する声をうかがっている。

など